

会長通信 No. 17

2016年7月1日

(一社) 岩手県中小企業診断士協会

会長 宮 健

目次	1. 総会が終了しました
	2. 4月以降の主な動き
	3. 会員の消息について
	4. 今後の日程について
	5. 熊本県地震に対する義援金の報告
	【付】新聞切抜き 2件

1. 総会が終了しました

会員の皆さん、お元気ですか。「会長通信 17号」をお届けします。

5月28日(土)に開催された当協会の年次総会は、お陰様で全議案が原案どおり可決されました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

第1号議案 平成27年度の事業報告所及び計算書類、これらに係る附属明細書の承認について

第2号議案 平成28年度の事業計画並びに収支予算の決定について

第3号議案 平成28年度の年会費の額及び徴収方法の決定について

第4号議案 平成28年度の役員報酬の決定について(報酬額 0円)

第5号議案 任期満了に伴う役員の選任について

第5号議案の役員改選については、前任者が全員重任となりました。

代表理事会長	宮 健	理事副会長	山火弘敬
理事	菅原光政	理事	土岐徹朗
理事	猿川裕巳	理事	菅原繁雄
理事	工藤伸一		
監事	斎藤静夫	監事	山口唯夫

総会終了後記念講演を聴講し、ILCについての理解を深めました。

テーマ 「ILC(国際リニアコライダー)の実現に向けて」

講師 岩手県政策地域部科学ILC推進室長 佐々木淳氏

なお、総会・講演会終了後公会堂多賀において懇親会を開催し、会員の交流を深めました。

2. 4月以降の主な動き

前号をお届けしてから、すでに3カ月が経過しました。

以下に示したのは、協会をめぐる諸行事等（内部・外部）について、日誌風にまとめたものです。

- ①4月1日（金） 「会長通信 No. 16」発行
- ②4月16日（土） いわて実践診断士の会勉強会・懇親会（やまなか家）
- ③4月19日（火） 盛岡市駅西口開発有識者会議（市・都南庁舎）
- ④4月23日（土） 診断士協会理事会（アイーナ県立大キャンパス）
- ⑤4月26日（火） 県中小企業再生支援協議会全体会議（盛岡商工会議所）
- ⑥5月25日（水） 県産業振興センター監事会（産業振興センター）
- ⑦5月28日（土） 診断士協会総会（県公会堂）
- ⑧5月30日（月） 県産業振興センター理事会（産業振興センター）
- ⑨5月31日（火） 岩手県行政書士会総会（ニューウイング）
- ⑩6月2日（木） 東北経済産業局から政策説明のため来所（中央会）
- ⑪6月17日（金） （一社）中小企業診断協会総会（東京銀座、山火副会長）
- ⑫6月24日（金） 岩手県信用保証協会外部評価委員会（保証協会会議室）

3. 会員の消息について

（1）いわて産業振興センターで活躍する会員

- 星野剛会員・・・よろず支援拠点チーフコーディネーター（非常勤）
（前チーフコーディネーター伊藤朗会員は退任しフリーに）
- 工藤伸一理事・・・農商工連携推進員ほか（非常勤）

（2）新入会員3人

- 橋本正裕会員・・・橋本コンサルティング・オフィス（診断士、行政書士）
宮城県黒川郡富谷町（宮城県協会とダブル加入）
- 高原庸輔会員・・・J A岩手県信連勤務
推薦者：菅原和則会員（県信連専務理事）
- 木津川浩司会員・・・一関信用金庫勤務
同金庫勤務の阿部博之会員は退会

なお、橋本会員、高原会員から、入会に当たってのご挨拶文を頂戴し添付しています。木津川会員のご挨拶文は、次号に掲載する予定です。

4. 今後の日程について

(1) 理論政策研修会

9月3日(土) 13:00~17:00

講師・テーマ：①東北財務局「平成28年度の中小企業施策」
②県農林水産部農業振興課「県の農業振興施策とTPP」
③中小機構「事業承継について」

(2) 日本経営診断学会との合同研究発表会

11月12日(土) 14:00~17:00(予定)

発表者は岩手県立大学の教授等・学生と、当協会会員を予定していますが、現在の段階では未定です。今後発表希望者を募りたいと思いますので、積極的に参加していただくようお願いいたします。

5. 熊本県地震に対する義援金の報告

熊本県地震に対する義援金募集をお願いしておりましたが、締切日までに14名からご協力をいただきました。合計金額15万円を協会本部に送金したところです。ご協力ありがとうございました。

なお、協会本部からの連絡によると、本部役員・職員、全国協会の会長・会員等からの義援金総額200万円が集まり、熊本県協会を通じて、被災地の復興支援のために寄贈したとのことでした。

【付】新聞切抜き 2件

- ① 日刊岩手建設工業新聞「ズバリ寸評」 平成28年4月20日掲載
「先見性・決断力・行動力」
- ② 日刊岩手建設工業新聞「ズバリ寸評」 平成28年6月8日掲載
「新・連続講座がスタート」

以 上

岩手県中小企業診断士協会の皆様へ



皆様はじめまして。橋本正裕と申します。岩手県中小企業診断士協会様に平成 28 年 5 月に入会をさせていただきました。よろしくお願ひいたします。

宮城県黒川郡富谷町在住、年齢 57 才です。あっという間に 57 才になってしまったというのが実感です。宮城県診断協会には平成 16 年入会です。

昨年 4 月に中小企業診断士と行政書士業務で開業いたしました。本年 5 月に経営革新等支援機関になることができました。開業した経緯は、新潟県に一人で住んでいる高齢の母親の元に頻りに返る必要性や、介護の件が直接の要因です。

キャッチコピーは、『誰よりも社長の不安と悩みを肌感覚で知る「小さな会社専門の売上倍増サポートコンサルタント」』です。アパレル、ブティック、建設業を主として、従業員 30 人以下の中小企業様の「売上・利益向上」「組織づくり」「資金繰り」を支援しています。役所関連をとおした経営支援や相談が主ですが、関連する建設業や産廃等の許認可も行政書士業務の一環として行っております。まだまだ、経営基盤は固まっておりません。昨年 1 年間は、企業診断後の具体的経営支援のノウハウが欠如していることを認識し、認定支援機関研修や、東京にて、違う分野の著名コンサルタントの先生 2 人に師事し、コンサルタントとしてのノウハウを教えてくださいました。

経営資源が脆弱な中小企業では、社長の「あり方」と働く環境づくりをすることで社員の「あり方」次第で業績はグンと上がることを実感しております。

何故なら、私自身、開業前の 12 年間で地場中小企業の No2 のポジションで働き、実感しているからです。具体的には、1 社は造船業+建設業の建設部門の売上拡大を命題とされ、在籍 5 年間で建設部門 4 億円を 15 億円まで伸ばすことができました。私も 2 級建築士、1 級土木施工管理技士の資格を有し、現場代理人として億単位の現場を指揮してきました。もう 1 社は、建材卸の会社です。従来の工務店・住宅メーカールート以外の異業種との取組み・販路拡大を命題とされ、電機商業組合他各種組合や電力子会社を開拓して、当初 3 億円の売上を 9 億円まで拡大させ、地域 No1 の地位と名声獲得に寄与してきました。33 年間のサラリーマン人生ですが、紆余曲折だらけです。大企業での勤務をとおして「あるべき経営資源の最適化」を俯瞰してきた経験も重要な財産になっております。

中小企業診断士に関しては、2 次試験合格後実務研修を終え、登録したのは平成 16 年 3 月です。中小企業診断士の資格を知ったのは、早稲田大学を卒業して、大手アパレルに入社して未知の地、仙台に配属されてすぐの時です。厳しくも温かく頭脳明晰でリーダー的存在の上司である課長にめぐり会い、資格の存在を教えてくださいました。傍流の新規事業部婦人服専門店（主流は百貨店）で、東北六県のブティックを担当し、マーケティングやマーチャンダイジングをマスターし、別注等商品企画も行いました。35 才で本社マーチャンダイザー転勤命令を断り、自宅を建て大好きにな

った仙台に住み続ける選択が、現在に至るキッカケです。大手住宅メーカー、大手ゼネコンへ勤務するも本社転勤命令で、自暴自棄になっていた時、再度、経営を学ぶべき（大学では遊んでばかりで学習せず）東北大学大学院経済学研究科博士課程前期で論理的・体系的に経営全般を学ぶことができました。多くの現役学生・留学生・社会人学生の仲間めぐりあうことができたことも大きな財産です。その学習をきっかけに中小企業診断士の資格勉強に取り組みました。取得まで4年かかりました。4年目は最後の年と決めていたので、2次試験合格を聞いた時は、嬉しくもホッとしたことを覚えています。紆余曲折の人生を振り返ると、「無駄な仕事はない。すべてが自分の実務経験に繋がる。」というのが、現在の率直な心境です。

岩手県には、アパレル時代にお世話になった取引先の存在や友人も多くいるので、特別な思いがあります。

今後、県協会の諸先輩に教えを頂くことも多いと思いますが、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、自己紹介の機会をお借りしてお願い申し上げます。

平成 28 年 6 月

岩手県中小企業診断士協会の皆様へ



皆様はじめまして、高原庸輔（たかはら ようすけ）と申します。盛岡市在住、33歳、血液型は「大ざっぱなO型」です。平成28年5月に岩手県中小企業診断士協会に入会いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

出身は、岩手県矢巾町で、実家は小規模ながら兼業農家を営んでおります。矢巾町は盛岡市のベッドタウンとして、JR矢巾駅や国道周辺を中心に開発が進んでおりますが、実家周辺は水田が広がる昔と変わらぬ風景を保っております。現在は、妻と娘（3才）の3人で盛岡市にて暮らしております。

私は、大学卒業後より岩手県信用農業協同組合連合会（JA岩手県信連）に勤務しておりますが、自身のスキルアップのため中小企業診断士の資格取得に挑戦する機会を頂き、平成28年2月に実務補習（仙台地区）を修了し、3月に診断士登録をいたしました。今後、企業内診断士として具体的にどう活動をしていくのか自問する日々が続いており、一日でも早く活動の基盤を固められたらと思う所存です。

この4月より融資部に配属となり、岩手県内の企業様向けに資金や事業運営に関する面において、微力ながらお手伝いをさせていただいております。中小企業診断士としても、また、融資担当者としても駆け出しではございますが、業務を通じてお客様と実際にお会いする機会を得て、日々勉強させていただいているところです。

東日本大震災より5年が経過いたしました。被災地域の復興は道半ばです。今後、より活気のある岩手県にしていくため、その一翼を担う企業様が益々発展できるよう、微力ながら尽力できればと存じます。

最後になりますが、診断士としての知識や経験も浅く、不勉強な身でございますので、岩手県協会の諸先輩方に教を乞う場面が多々あることと存じますが、その際は是非ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

高原 庸輔

宮健のズバリ寸評

▼708▲



宮健氏

き合いは、今から十数年前にさかのぼります。数億円にのぼる国と県からの補助

ち合せをし、経営内容について事前に説明を受けました。結論から言つと、売り上げ・利益ともに当初予定したレベルに遠く及ばず、毎期赤字決算が続いていま

が、もちろん私財投入(貸借対照表上は、理事長からの「役員借入金」)には限界があります。創業時に金融機関から借

とても満足いくレベルではありませんでしたが、何とか事業継続のめどをつけることができました。その後も折に触れ

わけです。当日は参加者30人ほどの小ぢんまりとした祝賀会でした。開会冒頭にあいさつに立った理

を紹介しました。もちろんこれはわたしの力ではなく、理事長以下スタッフの皆さんの、献身的な努力があつたればこそです。

先見性・決断力・行動力

つい最近、県内のある事業協同組合の創立20周年記念祝賀会に出席しました。事前に「来賓祝辞」を依頼され、たいへん名譽なことと思

金を基に工場を新設し、操業を開始してから7、8年が経過した頃のことです

深く、手の施しようがないというのが率直な印象でした。この間の資金不足

あえず経営診断を実施して「問題点」を洗い出しました。その後1年間ほどにわたって、

く、遠くから見守るだけで10年ほどが経過しました。その間に、経営環境が好転

壇上上がったわたしたしは、十数年前の危機的な状況を紹介します。現在の売り上げ

に必要なたんぱく質を、表題に掲げた先見性・決断力・行動力の三つを挙げ、理事長の経営手腕に称賛の辞を送つて、無事大役を果たしました。

(中小企業診断士)

宮健のズバリ寸評

宮健氏



参加は5月31日にスタートしました。平成24年度にはじ

というスタイルでした。

今年度の講座は、参加者の幅を広げる一方、講座内容も一新されました。講師陣は国土交通省東北地方整備局、岩手県県土整備部、シヨブカフェいわて、岩手

通りの「経営理念・経営管理」(2時間)

と「財務管理・原価管理」(5時間)の2枠です。合計7時間のうち、2時間は講座初日にすでに終了しました。

きがありますので、今回はその中から、「経営理念を死文化するな」(3月30日付)、「好きな言葉は何ですか?」(5月18日付)など4編を、レジュメの補助教材として使いました。

「経営管理」の中では、「企業風土」(社風)について受講者の皆さんに問題提起をしました。いろいろな企業とお付き合いしていると、企業それぞれに独特の「社風」があることに気が付きます。

するだけですが、論点を整理するときなどに使うと、それなりに効果があると思っています。

「経営管理」の中では、「企業風土」(社風)について受講者の皆さんに問題提起をしました。いろいろな企業とお付き合いしていると、企業それぞれに独特の「社風」があることに気が付きます。

り、「企業文化」の項には、「企業の構成員によって共有・伝承されている価値観・行動規範・信念の集合体」とあります。要するに企業風土とは、社内に漂っている「空気」みたいなものです。

一般論として、会社には、「明るい会社」、「風通しの良い(悪い)会社」、「暗い会社」などというイメージがつきまわっています。時には、「わが社は内外からどのように見られているだろうか」を考えてみることも、経営管理上大切なことだと思っています。(中小企業診断士)

新・連続講座がスタート

今回で4回目となる「いわて建設業経営改善連続研修講座」(主催・県建設業協会、共催・岩手大学、岩手県、県建設産業団体連合会)が、新しいスタイルに衣替えをして、受講者26人(24社)の

またこの講座は、当初は6社12人(各社2人)限定の講座で、座学4回(うち3回はわたしが講師担当)のほか、講師による受講企業の訪問指導(各社3回ずつ)を行って経営改善計画をまとめる

大学キャリア支援課、テレビ岩手営業局、社会保険労務士などです。特に目立つのが、「採用・労務」「営業・広報」などが加わったことです。

に講座の質を高めるかが問われているので、事前準備に力を入れておくことは言うまでもありません。元には、日刊岩手建設工業新聞に毎週1回掲載している「ズバリ寸評」の切り抜

いずれも比較的最近のもので、ご記憶の方も多いと思いますが、また「経営理念」や「経営管理」を考える上できつかけになればとの思いで書いたものです。講座の中では、要点を拾い読み

「企業が内外からどのように見られているだろうか」を考えてみることも、経営管理上大切なことだと思っています。(中小企業診断士)